

プロジェクトA調査報告

大阪にも進出！特定外来生物オオバナミズキンバイ

長谷川匡弘

本誌の先月号に、岸和田市の久米田池でオオバナミズキンバイ（広義）を確認という記事が掲載されました（横川ら，2018）。特定外来生物にも指定されているオオバナミズキンバイ（図1：12ページ）は、琵琶湖で猛威を振っています。大阪や京都などでも近年確認され始めています。

オオバナミズキンバイは、琵琶湖の南部で特にその生育地を広げており、湖岸に沿って水面を覆い尽くすほどに広がっている場所もあります（図2）。このような場所では、船舶の航行が難しくなったり、漁が不可能になったりするなどの被害が発生しており、水産資源の減少、湖畔植生への悪影響などが懸念されています。琵琶湖のように生育地が広がってしまった場合、駆除は極めて困難になります。滋賀県では、これまで莫大な予算をかけて、重機による大規模な駆除作業を行っていますが、それでも減少したとは言い難い状況が続いています。

大阪府下では、これまで図3で示す地点で確認されていますが、琵琶湖の下流である淀川周辺では意

外と確認が少ない状況です。もっとも、こちらで把握できている情報のみ示していますので、もっと多くの生育地が埋もれている可能性があります。

オオバナミズキンバイは、確認された場合、速やかな駆除と、その後の継続的な監視が必要です。淀川下流域で増加した場合、ワンドにすむ貴重な動植物に影響が及ぶだけではなく、駆除後の水草の管理場所等に関しても確保が難しく、大問題となるでしょう。オオバナミズキンバイは今後、6月から9月ごろにかけて図1のような、目立つ黄色い花を咲かせます。このような植物を見かけたら、すぐにご連絡ください。

引用文献

横川昌史, 首藤光太郎, 志賀 隆 2018. 岸和田市の久米田池でオオバナミズキンバイ（広義）を確認. Nature Study. 64(4) : 6.

謝辞 大阪府でのオオバナミズキンバイの分布について情報をくださった横川昌史学芸員、高田みちよ評議員に感謝します。

<はせがわ まさひろ：博物館学芸員>



図2：琵琶湖湖面を埋め尽くすオオバナミズキンバイ（滋賀県草津市）。

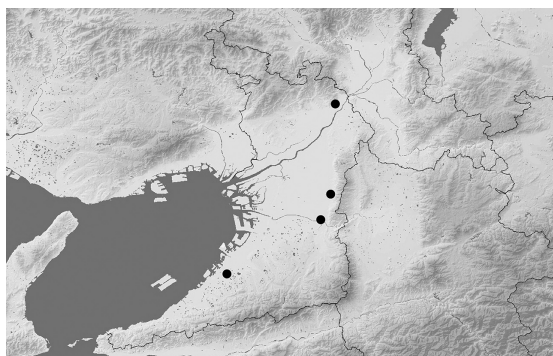


図3：オオバナミズキンバイ（広義）の大阪府下における確認地点（2018年4月現在）。



図1：オオバナミズキンバイの花。滋賀県草津市で2016年8月18日滋賀県草津市にて撮影（本文は7ページ）。